

第 3 1 回 日 本 が ん 登 録 協 議 会 学 術 集 会

院内がん登録PDCAサイクルのための実施状況調査

川上あゆみ¹⁾、中林愛恵¹⁾、引野美貴子²⁾、中原敬子³⁾、名原陽子³⁾、加村菜月⁴⁾、繁浪幸代⁴⁾、佐々木夏美⁵⁾、田中和子⁵⁾、田村研治¹⁾⁶⁾

1) 島根大学医学部医療サービス課がん登録室、2) 松江赤十字病院、3) 松江市立病院、4) 島根県立中央病院、5) 国立病院機構浜田医療センター、6) 島根大学医学部附属病院腫瘍内科

背景と目的

島根県の院内がん登録の質向上、そしてそれに欠かせない登録業務の安定性の確保を実現するためには、各施設でPDCAサイクルを確保していく必要がある。島根県がん診療ネットワーク協議会がん登録部会として、ヒアリング調査を実施しPDCAサイクル確保による改善を支援する。

方法

対象施設： 都道府県がん診療連携拠点病院又は、地域がん診療連携拠点病院 計5施設

調査期間： 2020年度～2021年度 計2回実施

調査方法： Webによるインタビュー形式

◆2020年度調査…都道府県がん診療連携拠点病院が各施設の実務者に聴取

◆2021年度調査…各施設の実務者間で聴取を行うピアレビュー方式

調査後、個別レポートを当該施設にフィードバックし、全体レポートを部会で情報共有

調査内容： 「がん診療連携拠点病院等の整備に関する指針」及び「院内がん登録運用マニュアル」に基づき、必須要件22項目、その他28項目で作成した調査票を用いて実施した。

結果 ①必須項目			結果 ②その他項目		
	2020年度	2021年度		2020年度	2021年度
1	5	6	1	5	5
2	5	5	2	5	5
3	5	5	3	5	5
4	5	5	4	5	5
5	5	5	5	5	5
6	5	5	6	5	5
7	5	5	7	5	5
8	5	5	8	5	5
9	3	4	9	3	3
10	2	3	10	4	4
11	5	5	11	4	4
12	5	5	12	2	3
13	5	5	13	2	4
14	5	5	14	イ) 1 ウ) 1 オ) 3	イ) 1 ウ) 1 オ) 3
15	5	5	15	5	5
16	5	5	16	4	5
17	5	5	17	4	5
18	5	5	18	4	4
19	a) 1 b) 1 c) 3	b) 1 c) 4	19	4	4
20	5	5	20	2	2
21	4	4	21	5	5
22	2	3	22	5	5
			23	該当なし	該当なし
			24	5	5
			25	4	4
			26	3	3

22項目中18項目は全ての施設で要件を満たしており、残り4項目は、2021年度調査時に改善している施設があった。

いずれかの施設で未実施があった4項目

- ・当該機関(※)で活用方法の管理や、活用のための提供適否の審査
 - ・活用のための提供適否の審査手順や規則の作成
 - ・全国集計提出前に、国立がん研究センターから提示される集計指標を算出し、おおむね標準的指標範囲内であることを確認
 - ・データ活用
- ※院内がん登録の運用上の課題の評価及び活用に係る規定の策定等を行う機関

改善あり

- ・活用のための提供適否の審査を行った
- ・提供するための手順書を作成した
- ・データ活用に取り組んだ

施設からのコメント

- ・提供適否の審査手順について、施設内の倫理規定では定めているが、院内がん登録独自では定めていない。
- ・集計指標と、標準的指標範囲が示されておらず、集計結果が標準的指標範囲内と確認する方法がわからない。
- ・QI研究に参加しているが、活用方法等は検討中。

未実施の施設が多かった項目

- ・院内がん登録情報の利用規程について、ホームページ等で公表している施設はいなかった。
- ・登録候補リスト作成のための抽出情報については、施設によって抽出項目は様々であったが、漏れのない登録、そして実務者の負担軽減のために工夫されていた。
- ・セキュリティポリシーに関して、院内がん登録システムへのアクセス制限、記録、点検の頻度や手順について、5施設中3施設が運用規程等で定めていなかったが、今後規程等に組み込む予定の施設もあった。院内がん情報が参照可能な場所への一時的な来訪者の入室記録については、記録を残していない施設は3施設であった。

各施設の取組み・困っていること

取組みについては、積極的に研修会への参加や、院内がん登録に関する規程等の見直し、データ活用が多かった。困っていることについては、データ活用の方法や情報共有をしたという意見が多かった。

結論

院内がん登録データの利活用は今後の課題であり、これを進めていくためにも各施設で院内がん登録データを適切に管理し、運用していかなければならない。調査方法をピアレビュー方式にしたことで、他施設の実務者同士が悩み等を相談し合える良い機会となり、自施設の運用状況を見直すことで改善にも繋がった。今後もこの取組みを継続させ、院内がん登録そしてがん医療の質向上のために運用体制の整備を行い、データ活用に繋げていけるように取り組んでいきたい。